

Leichtes Los. Großes Los?

300 Millionen fieberten weltweit mit. Danach war klar: Die Gegner der Deutschen heißen **COSTA RICA, POLEN, ECUADOR**. Klingt einfach. Doch der Druck ist für die Klinsmann-Elf nicht geringer geworden.

Als die jungen deutschen Philharmoniker aus Beethovens 9. Symphonie Schillers Ode „An die Freude“ wuchtig intonierten, wurde auf der Riesenleinwand als erster Trainer Jürgen Klinsmann eingeblendet, am Spielfeldrand stehend, die Arme jubelnd hochreißend und glückstrahlend. Ob das furiose Finale, das die groß und bunt aufgemachte Auslosungszeremonie abrundete, ein Happyend der Spiele 2006 für die deutsche Mannschaft andeutete? „Warum nicht?“ antwortet Rudi Völler, 2002 Teamchef und erst im Finale gebremst, 0:2, vom Champion aus Brasilien, dessen Elite er mittlerweile für „noch stärker als vor vier Jahren“ hält, weil Ronaldinho, Kaka oder Robinho „noch besser“ geworden seien. Deshalb findet es Völler „gut, dass wir auf Brasilien erst im Endspiel treffen können“.



Strahlend: Die Reaktion von Bundestrainer Jürgen Klinsmann(links) und Joachim Löw auf die Auslosung(rechts).

2006年はワールドカップ・イヤー。
この世紀のイベントを、地元ドイツはどう感じ、
どう報じているのでしょうか。
最も愛されているスポーツ誌の1つ「kicker」の誌面から
記事の一部を抜粋して紹介します。

(132~133ページの訳)

ラクな抽選。「大吉」?

世界中で3億の聴衆が手に汗をにぎった。そして明らかになったのは、ドイツの
対戦相手が、コスタリカ、ポーランド、エクアドルだということ。なんだか簡単
に聞こえる。とはいっても、クリンスマン・イレブンにとってプレッシャーが軽
くなったわけではない。

ドイツ青少年フィルによってベートーヴェンの第九からシラーの^{喜劇}頌歌「喜びの歌」
が力強く演奏されたとき、大きなスクリーン一杯にまず映されたのが、監督のユルゲ
ン・クリンスマンだった。——サッカー場の片隅に立ち、両手を喜びに高く掲げ、満
面に笑みをたたえて。

盛大にかつ華やかに開かれた組み分け抽選会のセレモニーを飾った、この熱狂的な
フィナーレは、ドイツチームに2006年W杯でのハッピーエンドを暗示するのだろうか?

「もちろんでしょう」と、2002年のチーム監督であり、最後の決勝戦で0:2とチャ
ンピオンのブラジルにプレーキをかけられたルディ・フェラーは言う。ロナウジーニョ、
カカー、ロビーニョなどが、「ずっと調子を上げた」ことから、彼は、このブラジルチ
ームのエリート達を今「4年前よりずっと強くなった」と踏んでいる。だからフェラー
は「ドイツがブラジルと決勝戦で対戦できれば、有難い」と言う。

Karlheinz Wild
(カールハインツ・ヴィルト)

(写真キャプション) 満面に笑み：ドイツ代表監督ユルゲン・クリンスマン(左)とヨアヒム・
レーヴ。抽選結果を受けて。

(記事の続き・大意)

しかしその決勝戦までには宿題を6つこなさなければならない。(と、記者ヴィルト
氏は続ける。)最初の3つが総当りのグループ戦。これは無理な仕事ではない、と現監
督も言い、勝ち抜き戦が始まるAchtelfinale (Achte=8分の1, Finale=決勝:ベ
スト16) までに「グループ内1位をはっきり達成」させなければ、とドイツサッカー協会
会長のマイヤー・フォーフェルダールは言う。前監督フェラーは慎重に、1位も「あり得
る」とコメント。そしてViertelfinale (Vieter=4分の1:準々決勝) ではスウェー
デンとまず戦ってからアルゼンチンと、希望はふくらむ。が、エキスパート達が考えるの
と全く違った経過になるのが、ワールドカップの常。

エクアドルは前哨戦で対ブラジル、アルゼンチンにそれぞれ1:0と2:0で勝ち、最
最終的に南アメリカグループ第3位を獲得した力のあるチームだが、2830mのキトから
降りて平地で戦いに臨むデメリットを持つ。コスタリカには楽勝と見る人に「安心は禁
物」と、かつてのW杯選手、監督も務め、現W杯組織委員会会長のベッケンバウアー
は言う。Achtelfinaleで前チャンピオンが破れ早々に帰途につかねばならなかった例
が、ソウルでのフランス対セネガル戦だった。第一試合はチームのその後の意気を左右
する。主催国にそのようなことがあっては断じてならない。が、“Der Ball ist rund.“ (ボ
ールは丸い=何が起るかわからない)ということだ。

Kleines Wissen

ワールドカップ豆知識

参加32チームは、まず4つのグループに分かれ、グループ内で総当り戦を行う。
それぞれ戦績の上位2チームが決勝トーナメントに進出できる。

Aグループ

ドイツ
コスタリカ
ポーランド
エクアドル

Bグループ

イングランド
パラグアイ
トリニダード・ドバゴ
スウェーデン

Cグループ

アルゼンチン
コートジボワール
セルビア・モンテネグロ
オランダ

Dグループ

メキシコ
イラン
アンゴラ
ボルトガル

Eグループ

イタリア
ガーナ
アメリカ
チェコ

Fグループ

ブラジル
クロアチア
オーストラリア
日本

Gグループ

フランス
スイス
韓国
トーゴ

Hグループ

スペイン
ウクライナ
チュニジア
サウジアラビア

さて、ではFグループに属する日本の戦いはどう予想されているのでしょうか？
kicker誌、敏腕記者のコメントをどうぞ。

An die japanischen Leser von der „Kicker“-Redaktion:

Über einen Favoriten in der F-Gruppe kann es keine zwei Meinungen geben. Alles andere als dass Brasilien Platz 1 in dieser Konstellation belegt, würde einer Sensation gleichkommen. Doch dahinter sollten mit Japan und Kroatien zwei Teams einigermaßen gleichauf liegen, während Australien allenfalls Außenseiterchancen einzuräumen sind. Die robusten aber trotzdem technisch starken Kroaten sollten trotz allem leichte Vorteile gegenüber den läuferisch nimmermüden Japanern haben. Entscheidend könnte sich jedoch der Spielplan auswirken: Geht es für Brasilien im letzten Gruppenspiel um nichts mehr, dann könnte es durchaus sein, dass Japan eine Überraschung gegen den Weltmeister landet und die Kroaten im Kampf um Platz 2 noch aussteicht.

Martin Grüner
kicker Sportmagazin

Kleines Wissen ワールドカップ豆知識

Fグループ試合日程

6月12日	オーストラリア	：	日本	於	カイザーслаウテルン
6月13日	ブラジル	：	クロアチア	於	ベルリン
6月18日	ブラジル	：	オーストラリア	於	ミュンヘン
6月18日	日本	：	クロアチア	於	ニュルンベルク
6月22日	日本	：	ブラジル	於	ドルトムント
6月22日	クロアチア	：	オーストラリア	於	シュトゥットガルト

(前ページの訳)

「kicker」から日本のみなさんへ

Fグループの優勝候補で意見が分かれることはまずないでしょう。この組み合わせでブラジルがトップにならないなどというようにことが起これば、それぞれセンセーションです。続くのは、たぶん日本とクロアチアの、ほぼ互角といってよい2チームで、オーストラリアはせいぜい自分たちが勝ち目のないチームであることを認めることしかできないでしょう。それでも強^いな上、高い技術力をもつクロアチアは、走れば疲れを知らない日本チームよりやはり若干有利か。しかし決定的に影響を与えうるのが、試合日程です。つまり、(それまでに2チームを負かしてグループ内優勝を確実にし)、もしブラジルにとって最後のグループリーグ戦がどうしてもよい状況になるとしたならば、日本が期せずして世界チャンピオンを下し、クロアチアが2位争いに敗れてしまう、ということもありえます(つまり、日本が2枚目の決勝トーナメントの切符を手に入れるでしょう)。

「キッカー」編集部
マルティン・グリュナー

最近のインタビューで、クリンスマン監督が、トップチームと見られているブラジル、アルゼンチンのほかの注目チームとしてオランダ、チェコ、フランス、イタリア、イングランド、ウクライナをあげていた。さて、Finale(決勝)に進むのはどのチームだろうか？

取材・文 / 小野フェラー 雅美

